

令和4年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：令和5年3月7日（火） 午前10時00分～12時10分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 4人出席

委員長 小島 道裕

副委員長 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 小玉 理恵子

委員 島立 理子

（教育委員会）

生涯学習部 佐々木部長

文化財課 佐久間課長、蚊谷室長、森本主査

（事務局）

加曾利貝塚博物館 神野館長、後藤副館長、長原主査

郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

4 議 題

（1）令和5年度の予算（案）と事業予定について

（2）その他

5 議事概要及び議事結果

（1）令和5年度の予算（案）と事業予定について

加曾利貝塚博物館、特別史跡加曾利貝塚新博物館の整備、郷土博物館の令和5年度予算（案）と事業予定について説明し、各委員から意見が出された。

（2）その他

文化財課より、新博物館整備事業の進捗状況と博物館法の改正に伴う対応について、加曾利貝塚博物館より市原市の歴史博物館との間で結んだ連携協定について報告し、質問を受けた。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により会議が開会。会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していること、千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開していることを告げた。続いて佐々木部長が挨拶を行い、新しく委員となった島立委員の挨拶のあと、新委員長・副委員長の選出を行った。佐々木部長の進行で、委員の互選により新委員長に小島委員を、副委員長に広田委員をそれぞれ選出した。

以後、小島委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）令和5年度の予算（案）と事業予定について

< 説 明 >

加曾利貝塚博物館から令和5年度の予算（案）と事業予定について説明を行った後、文化財課新博物館整備室より特別史跡加曾利貝塚新博物館の整備に係る令和5年度予算（案）について説明を行い、その後、郷土博物館から、令和5年度の予算（案）と事業予定について説明した。

< 質疑応答等 >

小島委員長 ただいま、事務局から説明があったので、これからは、委員から質問や意見をいただきたい。新博物館の進捗状況については後ほど改めて説明があるようなので、両博物館について各委員から何か意見はあるか。まず、加曾利貝塚博物館について質問や意見をお願いしたい。

鈴木委員 展示事業について教えてほしい。まず常設展は次年度特に変更の予定はないということか。

神野館長 常設展については、見直しをした部分についてはその都度入れ替え等を行っているが、次年度に大規模な入れ替えは今のところ考えていない。

鈴木委員 こちらの予算はどのくらい付いているのか。

神野館長 展示予算として一括になっているので、そこから個別に必要な支出を行っており、個別の予算がいくらということではない。

鈴木委員 サインなどが古くなっていたり、キャラクターの絵が色褪せてしまっていたりということが博物館ではよくある。そうしたものについては手作りでもよいので更新していく必要があり、そのための材料費的なものについては考えていった方がよい。色褪せた絵などがあると悲しい感じがする。
 関連してもう一つ、企画展については他施設などから資料の借り入れをしているのか。

神野館長 県内縄文遺跡展では、県内の他の施設から借りる方針でいる。また、あれもEこれもEも今回は外房編になるので、茂原から匝瑳周辺の資料を借りる形になると思う。

島立委員 いつも千葉市の博物館はボランティアの活動が盛んですばらしいと思っている。初めてなので教えてほしいのだが、ボランティアの育成について、資料にある基礎研修と専門研修とは具体的にどのようなことをしているのか。

- 神野館長 基礎研修は市全体で行っているもので、ボランティアとはどういうものかなどについての研修となる。専門研修はそれを受けて各施設で実際にどのような活動を行っているのかを見たり、理解してもらう研修となる。そのような研修を受けた上で、正式にボランティア活動に参加してもらう体制をとっている。
- 島立委員 確認だが基礎講座は6月に全6回の講座に3日間参加すればよいということか。その上で7月の専門研修の全5回にすべて参加して、はじめてボランティアとして登録されるとの理解でよいか。
- 神野館長 実際に全5回すべて参加できるかはその人の都合によるが、基本的にはこのような時期を設定して、参加してもらう形となっている。
- 島立委員 すばらしいシステムだと思う。
- 小玉委員 昨年、3年生がこちらの郷土博物館でお世話になった。また、今までコロナで公共交通機関を使わないということで、6年生が縄文体験の出前講座にお世話になったりしていたが、いよいよ5年度から公共交通機関を使って博物館に実際に行こうということで年間行事予定を立てている。本日の資料を読むと興味深いものもあるようなので、子どもたちにはぜひ本物に触れるというか、生の体験を大事にしたいと思うので学校でも広めたいと思う。
- 広田副委員長 新博物館も含めて、加曽利貝塚の広報活動については、どういうものを予定されているのか、また予算体系ではどこに入っているのか。
- 蚊谷室長 新博物館に関連する広報経費は、開館が令和10年度なので、その開館直前の令和9年度ごろから令和10年度上期にかけて開館準備の経費として広告宣伝費を計上している。
- 神野館長 現博物館については、それぞれの事業の中に、例えばイベントや企画展などの経費の中にそれぞれ広報費用も入っているので、具体的な金額について示すことはできない。
- 広田副委員長 広報活動としてはチラシが主になるのか。
- 神野館長 チラシの他に現在はWEBサイト上での広報がメインになってきている。
- 広田副委員長 WEBサイトの更新については特別に予算を組んでいるのか。

- 神野館長 特にしていない。
- 島立委員 加曽利貝塚博物館は、市原市の歴史博物館と協定を締結されたと思うが、その関連の予算は調査研究事業の中に入るのか。
- 神野館長 後ほど協定については報告させていただくが、これについては、まだ具体的な話が整っていないので、予算の中には直接は入ってきていない。この予算の中でできることについてやっていきたいと考えている。
- 島立委員 博物館同志の連携協定はすごくいいことだと思いながらニュースを拝見していた。
- 小島委員長 企画展が3つとも内容未定となっているが、例年この時期だとまだ内容は決まらないのか。
- 神野館長 全く決まっていないわけではなく、公表できる状況までは行っていないということである。この中で特に夏の企画展は主に小学生が夏休みの宿題の参考になるような展示を例年行っている。それぞれの地域の遺跡や埋蔵文化財について紹介するとともに、それをどうやって調べればいいのか分かるような展示を行っている。
- 秋の企画展は、その年の一番目玉になるようなものを選んで展示を企画している。また、県内縄文遺跡展については、先ほども話のあった市原と連携協定を締結したこともあり、市原市の遺跡を紹介するような場にしていきたいと考えている。その展示の中で連携というものを打ち出していくような取組みをしていきたいと考えている。
- 小島委員長 今、広田委員から広報について話があったが、特に秋の企画展は、館の目玉として実施するものだと思うので、早い時期から広報することが必要だと思う。もう少し早くから力を入れて、実施内容を言ってよいのではないかと思う。特に新博物館の開館は6年後で、もうそれほど先ではない。今ある博物館では施設も小さくて、たいしたことができないと終わるのでなくて、これから新しい博物館ができるというところに向かって盛り上げていくような広報を兼ねた展示の戦略があつてよいと思う。特に縄文研究において、世界をリードするようなすばらしい博物館をつくるという非常によい意気込みがあるのだから、やはりそうした片鱗がだんだんと見えてくるようなことをぜひやってほしいと思う。
- 小島委員長 他に加曽利貝塚博物館についてなければ、つづいて郷土博物館について質問・意見などをお願いしたい。

鈴木委員 これはコメントになるが、企画展で「商人たちの選択」という展示を計画中ということだが、近世からの歴史を取り上げるということで非常に興味深い。特に多田屋や奈良屋など千葉市で生まれた人間としてはぜひ見たいという興味を湧かせる。商家から資料もたくさん出てくるのではないかと期待している。

島立委員 企画展に関して、奈良屋の資料は中央博物館大利根分館に多数あるので、ぜひ活用してほしい。それとは別に1点質問がある。出前授業のところでエドゥケーターと書いてあるが、これは正規の職員なのか。

天野館長 会計年度任用職員である。小学校担当と中学校担当各1人ずつ来てもらっている。ただ、それぞれ週2日ずつの出勤である。エドゥケーターと一緒に我々も入りながらどんな出前授業がよいかを検討し、現在12ぐらいのメニューをホームページ上に掲載している。学校から出前授業の希望があると、実際に学校に行き打ち合わせをして、どんな子どもたちなのかから始まって、実態に合わせてながら授業に臨んでいる。ただし決まったメニューだけではなくて学校からの要望にも応えるという姿勢でやっている。特に中学校はどうしても専科の先生が授業をしているので、要望が少ない。今年度やってみて、この方向がよいのではないかと考えているのは、地域のことを全般的に子供たちに考えさせるとか、修学旅行に行く前にまず千葉のことをもうちょっと詳しく知ってから行こうとか、そうした形で中学生に希求していくような授業に発展できたらよいと考えている。

島立委員 もう少しエドゥケーターの日数があるとよい。

天野館長 その通りで、小学校の要望はとにかく多く、現在、最大限に出て行ってもらっている状況である。確かにもう少し勤務日数があるとよいと思っている。

島立委員 歴史講座の千葉氏関連講座で、それぞれ千葉経済大学や千葉大学との共同開催という形になっているが、具体的にはどのような形なのか。

芦田副館長 講座の内容などを決めるのにももちろん大学側と相談をしているが、博物館には大人数の入る部屋が無いこともあり、大学であれば、200人程が入る会場もあるので、共催という形で、大学を会場に開催させてもらっているということである。

島立委員 講師は基本的には館の職員なのか。

芦田副館長 講師は基本的に外部の方をお願いしている。

- 島立委員 大学側の学生に対して何か働きかけをしているのか。
- 芦田副館長 学生も聴講可能ではあるが、参加者を事前公募する関係で、学生が応募してくれることは少ないのが現状である。
- 島立委員 大学との連携の中で、参加した学生の単位になるということはあるのか。
- 芦田副館長 そうしたことは無い。
- 天野館長 講座の成果として講演録を作成したり、動画を公開するなどしている。
- 鈴木委員 職場体験の受け入れについて、次年度はまだ申し込みが無いということだったが、これについてWEBサイトで公募などはしているのか。
- 芦田副館長 これについては掲載していない。学校から要望があった場合に対応することになっている。
- 鈴木委員 今、中学校では職場体験というものを行っているのか、また博物館でそうした生徒を受け入れていることを先生方は知っているのか。
- 天野館長 職場体験は主に中学2年生が行っている。ホームページなどでは広報していないが、博物館でも受け入れていることは口コミなどで先生方も知っているのではないかと。ただ、あまり多くは受け入れできない現状があり、相談があれば応じるという形でやっている。
- 鈴木委員 実際、一般の人も博物館の仕事がどういうものか分からないということがあり、子どもはもっとそうだと思うので、できれば知っておいてもらいたい。そうして将来的には博物館の支援をするような人になってもらいたいという気持ちがある。先生方にできるだけ知ってもらえるような取組みをしてほしい。
- 天野館長 エドューケーターの出張出前授業については、年度当初の4月に校長会、社会科主任会、市の教育研究会などで宣伝を行っている。その中で、一言職場体験についても広報することは可能だと思う。
- 小島委員長 企画展もたいへん興味深いラインナップを揃えており、期待したいと思う。展示リニューアルと企画展というのは関係していて、企画展で行った内容をリニューアルにも取り入れていくという関係も当然あると思う。先ほど、リニューアルについて、展示テーマや動線、ゾーニングという話が出ていたが、具体的にこの部分をこのようにリニューアルするなどの考え

はあるか。特に近世展示がないのが課題になっているのでそのあたりをどう考えているのか。

錦織主査

当館では令和8年度の千葉開府900年に向けて展示リニューアルを考えている。今年度は展示リニューアルの調査検討をしており、それに基づいて次年度設計を行い、6年度以降に展示改修を行う予定である。

本年度はまず、当館の現状と課題をまとめ、そこから抽出したリニューアルの基本的な考え方として、リニューアルのコンセプトや展示テーマをまとめ、動線やゾーニングなどを固めていく作業を年度末に向けて行っている。

当館の現状と課題として、古代・近世の常設展示が無いなど、本市のあゆみが（通史として）理解できない。千葉氏の展示は、同氏の歩みを淡々と述べるだけで、歴史の躍動感を伝えきれていない。展示の動線が不明確。また企画展示室やバックヤードなど必要な諸室が無い。展示ケースや照明等が古く、楽しみながら学べる場になっていない、などの点がある。

続いて、リニューアルの考え方としては、通史展示の実現ということが前提としてあったので、リニューアルコンセプトを「郷土千葉のあゆみ、そのダイナミズムがわかる博物館への再生」とし、展示テーマを「海と陸、人とモノを結ぶ「千葉」」とした。これを踏まえて千葉市のあゆみが分かりやすく理解できる常設展示の実現や最新の研究成果を踏まえ、中世の時代像を体感できるような千葉氏展示の刷新、また、デジタル技術を活用した魅力的で誰もが楽しめるワクワク感溢れる展示プラン作り、企画展示室の設置やバックヤードの増設、動線の明確化やゾーニングなどについて今後まとめていく。動線については、現状とは異なり、まず1階からエレベーターで5階へ移動してもらい、そこから順番に下の階へ降りていく形を考えている。ゾーニングについては、5階は展望室としながら下の階のプロローグの役割を持たせる。4階～2階は常設展示室とし、4階が原始・古代、3階が中世、2階が近世・近現代の展示を設ける形を考えており、1階には企画展示室を設置することを考えている。以上が、今考えているリニューアルのゾーニングである。これに基づいて次年度実際に設計を行い、6年度以降改修を進め、令和8年度の開府900年までにリニューアルを完成させることを考えている。

小島委員長

丁寧に補足してもらい感謝する。5階の展望を先ほど見せてもらい、たいへん見晴らしがよくなったと思う。あそこにプロローグというのは良いと思う。千葉市というエリアを対象とした博物館なので、まずそこを実際に見てイメージしてもらってから、そこから歴史的なものへ移るとするのはよい順番になっていると思った。また、随時計画の進捗とともに説明してもらえればと思う。

広田副委員長　私もゾーニングはよいのではないかと思う。工事費はまだ出ていないと思うが、工事費が決まった段階で、その発注方式についても十分検討してもらいたい。博物館展示の事業については、業者によってだいぶグレードに差があると思うので、その辺を慎重に進めてもらいたい。

天野館長　追加だが、先ほど小島委員からあったように、ここ数年間行っている特別展、企画展、小企画展などは全てこのリニューアルの常設展「近世・近現代」で活かせる内容を選びながら、その展示物を蓄積している状況である。開府 900 年があるので、千葉一族絡みの展示と合わせて、近世・近現代についても市史で作成している史料編の内容とも関連させながら展示を考えているという状況である。

小島委員長　広田委員から工事の業者のことで発言があったので、私からも申し上げておく。先ほどの説明の中にも新しい技術やビジュアル的なもの、ITなどを使うとされていたが、自分の経験でいうと業者はついそちらの方に一生懸命になって、そちらにばかりお金を使って、肝心のやりたいことにお金が回らないということになりがちなので、こういう展示は中身が当然大事なので、設計段階からそれが十分反映されて、あまり技術的なところとか設備的なところに走らないように、注意するとよいと思う。

鈴木委員　関連して、展示機材というのはたいへん高額なものがあり、展示ケースもたいへん高い。必要性をよく考えて、あまり無駄なスペックを入れないよう、エアタイトは本当に必要かなどをよく検討した方がよい。展示ケース 1 台は、小さいものでも場合によっては車 1 台より高いので気を付けてほしい。

天野館長　リニューアルの考え方の中に SDGs ということを入れていて、なるべく既存の使えるケースなどは再利用するという考えでやっていくことをお願いしていきたいと思っている。

小島委員長　あと、ホームページやツイッターも非常によく発信されているが、ホームページに最近研究員の方がコラムを書いている、とても充実してきて良いのだが、あれはホームページだけなのか。最近お城がすごくブームなので出版社から市販本として出せるのではないかと思う。そうすれば収益にもつながる。収益という項目がいつもなくて、入館料が無いためかと思っていたが、雑収入のような、グッズ販売なども含めて、機会があれば考えてよいのではないか。

小島委員長　他になければ、(1) 令和 5 年度の予算(案)と事業予定についてはこれで審議を終了し、次に(2) その他に移る。

議事（２）その他

< 説 明 >

文化財課新博物館整備室より、去る 2 月 17 日に公表された特別史跡加曾利貝塚新博物館（仮称）整備・運営事業要求水準書（案）の内容について、ポイントとなる部分を中心に説明した。

鈴木委員 何点かあるが、まず 86 ページの附帯事業に飲食スペース・ミュージアムショップとあるが、飲食スペースはレストランを意味しているのか。

蚊谷室長 レストランもしくはカフェを想定している。

鈴木委員 「新博物館の利用者サービス維持・向上の観点から、定期的に商品（飲食メニューを含む）やサービスの質を確認・改善するための体制を整備し、それを確実に実施すること。」とある。ミュージアムショップの商品について事業者任せにしようという場合もあると思うが、学芸員が商品開発に携わるというやり方もあるので、そういう余地も残した方がよいのではないかと思う。学芸員が監修しないとどうしてもリアルではないレプリカとか絵などが増えてしまう可能性がある。長期的な観点からは学芸員が関わった商品が含まれていた方がショップとして信頼性を増すということがある。そうでないと最悪の場合お土産品ばかりになってしまう。何か考慮された方がよいのではないかと思う。

鈴木委員 また、別添資料 1 各室諸元表の一般収蔵庫のところ、④設備・環境の部分だが、「温湿度管理は年間を通して 28℃以下、湿度 55%±5%」とあるが、28 度というのはどうなのか。一般的には収蔵庫の場合もう少し低いのではないか。20℃から 25℃ぐらいが通常である。収蔵品にもよるが、基準としては如何かという気がした。

小島委員長 収蔵する物にもよるので、収蔵庫の中全部ではなくて、物によって分けるという方法もある。土器などはあまり温度は関係ないかもしれないが、実際の収蔵品に合わせて数字を考えた方がよい気がする。

蚊谷室長 これは以前、文化庁の外郭団体の東文研と協議したものである。確かに縄文土器であれば温度管理というものはそれほど厳密ではなくて、怖いのはむしろ湿度だということで、湿度管理はしっかりしていくべきとの意見があった。そこで、夏場を想定して 28 度が最大値と考えているが、外気温との差が大きくなると結露の原因にもなるので、外気温との差を見ながら温度調整はしていくという趣旨で 28 度以下という表現をしている。

鈴木委員 有機物でなければそれほど問題は無いと思うが、そのあたりは博物館の当事者の方と相談した方がよいかと思う。

蚊谷室長 わかりました。

広田委員 他市でPFI事業というものをいくつかお手伝いしているが、千葉市の要求水準書は非常によくできているのではないかと思う。

後々シートを基にSPCなり目的会社とどういう関係を築いていくかというところが成功の鍵になると思うが、ここまで詰められているときっと良い関係になるのではないかと思う。

小島委員 私もホームページに出ていたので少し拝見したが、その中で気になった点がある。先ほど説明にもあったが、市の直営部分との切り分けが実際のところをどのようになるのかというのが少しイメージしにくい。当然資料収集、調査研究あるいは展示の企画内容などについては直営だと思うが、具体的に言うと学芸員は市の職員になるということか。

蚊谷室長 市の職員である学芸員が収集保存業務と調査研究業務を研究室や分析室で業務として行う。業者は受付や展示室の案内、体験プログラムの対応などを行うことになる。

小島委員 展示の部分は両者が関わってくると思う。中身については当然学芸員が企画するが、実際のところ展示室でのいろいろな作業には、業者側の職員も関係してくる。一緒に働くということか。

蚊谷室長 実際の現場では、一緒に行うという形になると思う。やはり展示物一つ配置するにしても、どこに何を置くのかというところは学芸員と展示室内で相談しながら配置を決めていくことになると思う。厳密にこれは事業者の業務だから後は事業者にお問い合わせするというように手を離すことは実際には無いと思う。

小島委員 当然そうだと思うが、そうすると業者側の職員にもかなり知識とか技量が求められると思う。全く素人の方に展示室の作業をしてもらおうというのは危険を伴うし、実際の仕事にも支障が出ると思う。その質的な保証というものは何かあるのか。

蚊谷室長 要求水準書に学芸員資格を持つ者の配置などを求めると、事業を担うことができる運営事業者の数が減ってしまうということがあるし、そうすると事業者間の競争性が低下してしまうので、最低限クリアすべき要求水準書には入れていない。ただし、学芸の知識を有する者の配置などが提案され

ていると、それは選定基準において加点評価されることになる想定している。

小島委員長 なるほど、これは最低基準で、加点があるということか。それはよいと思う。学芸員資格まで求めると非常に制約されてしまうので、むしろ学芸員資格のある人は市の職員として採用すべきだと思うが、そういう専門知識を持っている方を加点という形で評価するシステムはよいと思う。
その人数配置も業者側で決めるということか。

蚊谷室長 それも提案になってくると思う。

小島委員長 限られた予算の中でどれだけの人員を配置できるかは業者からの提案によるということで、プロポーザルを見て判断していくということか。

蚊谷室長 そうです。

小島委員長 学芸員はどうか。その後採用は進んでいるのか。最終的に何人ぐらいになりそうだとか、そのあたりの目途があれば教えてほしい。

佐久間課長 今年度採用試験を実施して合格者を出しているので、来年度学芸員が増える形になる。来年度以降については、これからだが、基本計画ができて業者選定が進んでいるので、これまでは隔年度で採用していたものを、10年度の開館に向けて、準備期間もあるので、毎年度できれば採用したいというのが所管の考えで、今人事当局と調整をしているところである。

小島委員長 いつも申し上げているが、人の配置が一番大事なので、できるだけ早く人材を揃えていただいて、新しい博物館の学芸員になる方が計画段階から関わって、作っていくというそのプロセスが決定的に重要だと思うので、そこは市としてぜひ尽力してほしい。

島立委員 一番最後にある指定研究機関を目指されるということだが、今は昔よりはなりやすくなっているようだが。それなりにハードルがあり、すぐには申請できないと思うので、あらかじめ準備をしておいたほうがよいと思う。

鈴木委員 この博物館に図書室はあるのか。

蚊谷室長 図書室として独立した部屋の設置は考えていない。それに代わる機能として、未来ラウンジという常設展示スペースがあり、そこで図書のレファレンスやネット環境を提供して、それらを参照しながら、そこにいる人達

やそこに配置する職員と語らうことによって、お客様が気づきを得たり、人との対応の中で学んでいくというようなことを想定している。

鈴木委員 すると入館しないとそこには行けないということか。

蚊谷室長 そうです。

鈴木委員 入館料は考えているか。

蚊谷室長 入館料は有料が前提で、これは令和10年の開館前までに、適正な公共施設料金の水準というものが市にあるので、その基準に沿って設定していく。

鈴木委員 図書室が入館しないと使えないというのは如何か。

小島委員長 両方の考え方があり得る。オープンスペースにするところもあるが、ただ今回の場所では、図書室を利用するためだけに行く人は多くないかもしれない。

広田副委員長 県立図書館のときはMLAの重要性はずいぶん議論されたが、今回はあまりそういった話は出てこなかった。

鈴木委員 調べ物で土器について調べたりすることが無いのか心配になる。特に住宅地であれば、ますます子どもたちが、ふらっと行くのではないか。

小島委員長 何か利用者の便宜を図っていただけるようになるとよい。

蚊谷室長 料金設定はこれからだが、市の施設の多くは、大人は有料で子供は無料というのが一つの分け方となっていると思うので、子供の学びの環境については最大の配慮をしていきたい。

< 説 明 >

文化財課より、博物館法の改正に伴う対応について、博物館の登録に関する基準（案）と博物館に相当する施設の指定に関する基準（案）を示して説明した。

鈴木委員 新しい博物館法の登録の審査というのが第13条からあり、その中に次に掲げる要件のいずれにも該当する法人として、（1）に博物館運営に必要な経済的基礎とか、（2）が知識とか経験とか、あとは社会的信望などの項目があるが、それらはこちらに入れなくてよいのか。

佐久間課長 委員のご指摘は、第 13 条第 1 項第 1 号の基準だと思うが、今回お示ししたのは第 13 条第 2 項に関するもので、第 2 項では都道府県の教育委員会、指定都市の場合は指定都市の教育委員会が含まれるが、この第 2 項で前項の第 3 号から第 5 号までの基準を定めるにあたって、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする、となっている。今回の基準は、第 3 号が博物館資料の収集、保管及び展示並びに調査研究を行う体制に関する基準で、第 4 号が職員の配置の基準、第 5 号は施設及び設備の基準について定めるものである。先ほどご指摘の部分は第 1 号の民間の博物館の経済的な基礎に関するものなので、これは博物館法の第 13 条第 1 項第 1 号がそのまま適用される形になる。

この経済的基礎がどのようなものかについては、国の政省令の公布に際して説明会があったが、その中で、今のところ会社更生法の申請をしていないというぐらいの比較的緩い要件を考えているという説明が国からあった。

小島委員長 博物館の体制に関する基準の 7 に、研修その他の研修に職員が参加する機会が確保されていること、というのがあって、これはとても重要なことだと改めて思った。先程新博物館の学芸員以外の職員もやはりこういう研修でスキルアップしていくことがとても大事だと思う。最初から資格があるよりも、郷土博物館にも研究員の方がいらっしゃるが、やはり博物館の職員としてのスキルアップも大事だと思うので、研修してそうした面を向上させていくことは博物館にとって必須ではないかと改めて思う。

小島委員長 他になれば、事務局より他にあるか。

神野館長 加曽利貝塚博物館から報告がある。当館と市原歴史博物館は縄文時代貝塚遺跡の保存と活用を効率的に推進することを目的に、2 月 16 日（木）に連携協定を締結した。

昨年 11 月に新たに開館した市原歴史博物館は、全国的に注目される大型貝塚の発掘調査成果を収蔵しており、その活用に取り組まれているところだが、その所蔵資料については、特別史跡加曽利貝塚をはじめとする千葉市の貝塚遺跡も保存活用においても非常に価値があるものと考えている。

そこでこのたび両館では調査研究、展示、教育普及情報発信などの分野で強固な協力体制を作り、両市にとって重要な文化遺産である貝塚遺跡の価値と魅力をさらに高めていくことを目指して連携協定を締結した。

なお、本連携協定は現在のその加曽利貝塚博物館の活動を対象にはしているが、縄文時代研究を行う施設機関による連携の核となるところとした新博物館基本構想を視野に入れているものであり、この取り組みを新博物館に発展的に繋げていきたいと考えており、現在両館のウェブサイトやあるいは

館内に博物館連携を紹介するコーナーを設けるなど協働した広報活動を始めている。今後さらに具体的な調査研究、展示普及活動などの取り組みについて協議してまいりたい。

広田副委員長 市原市のどの辺にできたのか。

神野館長 能満という市役所より少し奥に入ったところに立地している。市原市の武道館の隣である。かなり充実した博物館になっている。

小島委員長 他に質問がなければ、事務局より他にあるか。

天野館長 次回、令和5年度の第1回協議会の日程については、8月下旬の予定で調整をしたいと考えている。後日、連絡させていただくのでよろしく願いしたい。

小島委員長 他に何かあるか。なければ、本日の議事はここで終了する。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231